



「こどものきこえサポートセンター」を開設しました

こどものきこえサポートセンター センター長 さかもと たつり
坂本 達則

子どもの難聴は決して稀ではありません。先天性両側性難聴は出生1,000人に1~2人程度にみられ、軽度・中等度難聴や片側性難聴を含めると、約1,000人に3~5人と比較的高い頻度で存在します。難聴児の支援には、医療だけでなく、地域保健や教育との連携が不可欠です。市町村の保健師が家族に寄り添いながら、耳鼻咽喉科や小児科、さらに保育所・幼稚園・学校・ろう学校などの教育機関と連携し、聴こえの支援、言語発達の促進、社会参加の支援を継続的に行っていくことが重要です。

当院では、島根県と連携し、こうした支援体制の中核となる拠点として2026年4月1日「こどものきこえサポートセンター」を設置しました。本センターでは、地域における難聴児の実態を把握し、支援の空白期間を生じさせない継続的な伴走支援を目指します。また、難聴児とその家族の相談窓口として機能するとともに、関係機関の連携強化や支援者の専門性向上に向けた活動を推進していきます。

問い合わせ先 **耳鼻咽喉科・頭頸部外科外来** TEL:0853-20-2390

島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報

2026年4月15日~5月14日

対象者: 一般 一般市民 医療 医療関係者 本学 本学教職員・学生

開催日	開催名	場所(★印 学外開催)	対象者	主催者
4月26日(日) 13:30~16:00	出雲市民フォーラム ~島根大学病院の最新治療 2026年春~	臨床大講堂(2F)	一般	島根大学医学部附属病院

詳細については、医学部・附属病院ホームページ【研修会・講演会・セミナー】をご覧ください。

令和7年 ワークライフバランス川柳 優秀作品

賞名	受賞作品	ペンネーム(又は氏名)
椎名病院長賞	バランスを 取った仕事と 欠く体形	おばば



NEWS



表紙: 病院長 椎名 浩昭
副病院長 石原 俊治
山崎 修造
大野 智造
金崎 啓造
川上 利枝

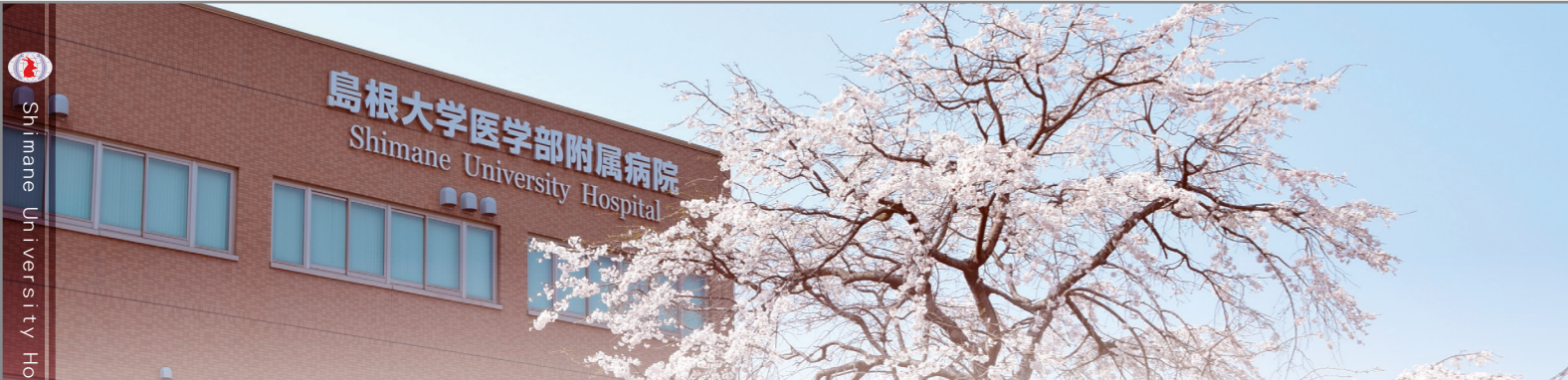
CONTENTS

中表紙

・新年度のご挨拶
・副病院長就任のご挨拶

裏表紙

・「こどものきこえサポートセンター」を開設しました



新年度のご挨拶 「街の中にいつも大学病院」

病院長 しいな ひろあき
椎名 浩昭

新年度を迎えました。平素より、島根大学医学部附属病院の運営を担う教職員、ならびに地域の皆さまのご支援に心より感謝申し上げます。

島根大学医学部附属病院は、島根県唯一の特定機能病院として、これまで地域医療の「最後の砦」としての役割を担ってきました。同時に、山陰地域における高度医療と医療人材育成を担う広域医療・医育拠点としての使命も果たしています。しかし、人口減少と急速な高齢化、医師の働き方改革、医療を取り巻く社会環境の変化などにより、大学病院を取り巻く状況は大きな転換期を迎えています。こうした時代の変化の中で、大学病院としての使命を見据えながら、将来にわたって質の高い医療を提供し続けるための新たな取り組みが求められています。



当院では現在、タスク・シフト／シェアの推進や医療DXの活用などを通じて業務の効率化を進め、診療の質と安全を守りながら、教育・研究の充実にも力を注いでいます。大学病院は医療を提供する場であると同時に、未来の医療を担う人材を育て、新しい医学の知を生み出す拠点でもあります。その使命を次の世代へ確実につないでいくためにも、附属病院のある出雲キャンパス全体としての改革を一步一步着実に進めていきたいと考えています。

また、「街の中にいつも大学病院」をテーマに、地域との連携をさらに深めていきます。地域医療機関や介護施設と協力しながら、重症化予防や円滑な地域移行を進め、2040年に向けた新しい地域医療構想のもとで地域全体の医療提供体制の充実にも貢献していきたいと考えています。

教育・研究・診療、そして地域医療をつなぎながら、「知識から叡智へ、地域から未来へ」。

“攻めの予防医療”を念頭におきつつ、教職員の皆さまと力を合わせ、地域に信頼され続ける大学病院として島根の医療の未来を切り拓いてまいります。本年度も変わらぬご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

(医療安全担当) 副院長就任のご挨拶

いしはら しゅんじ
消化器内科 教授 石原 俊治

本年4月より医療安全担当副院長を拝命いたしました石原俊治です。身に余る重責ではございますが、当院における医療安全のさらなる向上に努めてまいりたいと考えております。

当院では、病院長のリーダーシップの下、歴代の医療安全担当副院長をはじめ、医療安全管理部、各診療科・各部門の皆様のご尽力により、医療安全体制が着実に整備されてまいりました。とりわけ前任の大野教授におかれましては、この4年間にわたり医療安全体制の強化と組織的な安全文化の醸成にご尽力いただき、当院の医療の質と信頼の向上に大きく貢献されました。ここに深く敬意と感謝を表します。



医療安全は、患者さんに安心して医療を受けていただくための基盤であると同時に、医療に携わる職員が安心して診療に取り組むための重要な柱でもあります。高度化・複雑化する医療環境の中にあって、安全文化を組織全体で共有し、日々の実践を通じて継続的に改善を重ねていくことが求められております。

微力ではございますが、これまで築かれてきた取り組みを大切に継承しつつ、関係各位と力を合わせ、より安全で質の高い医療の提供に努めてまいります。また、職員一人ひとりが医療安全の担い手として主体的に関わる風土を育み、当院全体で安全文化をさらに深化させていきたいと考えております。皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

問い合わせ先 消化器内科 医局 TEL:0853-20-2190



お知らせ

島大病院ニュース 2026年4月

島根県における

薬剤師確保と医薬品安定供給に向けて — 薬剤部の新たな取組 —

薬剤部 薬剤部長／教授 やの たかひさ
矢野 貴久

島根県には薬学部がなく、病院薬剤師の確保が大きな課題です。当院薬剤部ならびに私が会長を務める島根県病院薬剤師会では、県と連携して新たな取組を進めています。令和6年度に開始した「薬学生・薬剤師のためのオンライン病院合同就職説明会」や、令和7年度から県外薬学生・薬剤師を対象に開始した「病院見学等旅費助成事業」では、各医療機関の皆さまにもご協力をいただき、島根県の病院や病院薬剤師の魅力を伝える場の拡充に取り組んでいます。

また、次世代を担う中高生向けに、テレビ番組「謎解きで発見! 松丸君と学ぶ島根の病院薬剤師」(日本海テレビ・島根県政特別番組)を制作しました。病院薬剤師のやりがいや魅力をわかりやすく紹介しており、現在はYouTubeでも配信しています。

もう一つの大きな課題が、医薬品供給不足です。製薬企業や原材料、コスト等の事情により全国的にも深刻な問題となっています。島根県では特に、都市部に比べて流通網に限られ、供給不足の影響を受けやすい状況にあります。必要な薬を患者さんへ滞りなく届けるため、当院では新たに「地域フォーミュラー」の導入に向けた取組に着手しました。地域の医療機関の皆さまと連携して、安定供給を重視した標準的な推奨薬リストを共有し、限られた医薬品資源を地域全体で有効に活用できる体制づくりを目指してまいります。

いずれも一朝一夕に解決できる課題ではありませんが、地域の皆さまと力を合わせ、一つひとつ取組を進めてまいります。

問合せ先 薬剤部薬務室 TEL: 0853-20-2463

謎解きで発見!
島根の松丸君と学ぶ
病院薬剤師

動画はこちら↓
島根県公式YouTubeチャンネル「しまねっこCH」

薬剤師って、どんな仕事?
その答えをナゾトキで解き明かす!
薬剤師になりたい中高生、進路に悩む中高生、
保護者の皆様にご覧いただきたい番組です!

島根*創生 SHIMANE SOUSEI Co. Ltd.
島根県健康福祉部薬事衛生課
TEL: 0853-22-6521
E: yokuzeshi@pref.shimane.lg.jp
X: https://x.com/yokujishimane

「謎解きで発見!松丸君と学ぶ島根の病院薬剤師」番組案内 (QRコードからYouTubeでご視聴いただけます)



2026年4月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



ご報告

島大病院ニュース 2026年4月

2026年度版

入院編

患者満足度データが示す、当院の医療の質と信頼性 — 高水準・高評価を支える継続的な取り組み —

患者満足度向上WG
かわむら としひこ
医療情報部 准教授 河村 敏彦

当院では、入院医療の質を継続的に確認するため、年2回の患者満足度アンケートを実施しています。2025年度調査では、1,133名の方にご回答いただきました。

全体の平均満足度スコアは89.55点(95%信頼区間:88.97~90.12)と高水準を維持しており(図1)、90点以上の評価は全体の約半数を占めています(図2の赤枠)。医師・看護師・職員の対応については「非常に満足」「満足」が95%を超えており、医療サービスの質が安定して維持されていることが示唆されます。

一方、「食事」は他項目と比べて不満の割合が相対的に高く(約13%)、重点的な改善対象と位置づけています。不満割合は年度間で大きな変動はみられず、概ね同水準で推移しています。現在、栄養治療室と連携し、食事内容やサービス認知の向上に取り組んでいます。また、「病室の清潔さ」については、2025年度に不満割合がわずかに増加したものの、低い水準で推移しており、全体として安定した状態が保たれています。

今後も患者さんの声を医療現場に反映し、医療の質を安定かつ高水準で維持できるよう、病院づくりを進めてまいります。

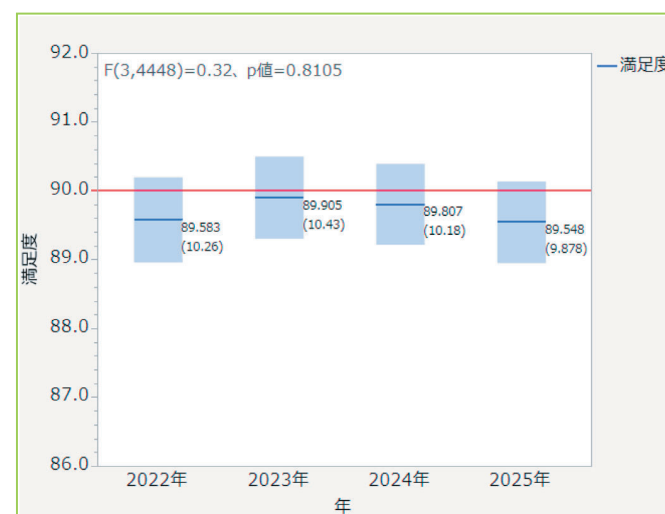


図1 患者満足度スコアの年度別推移

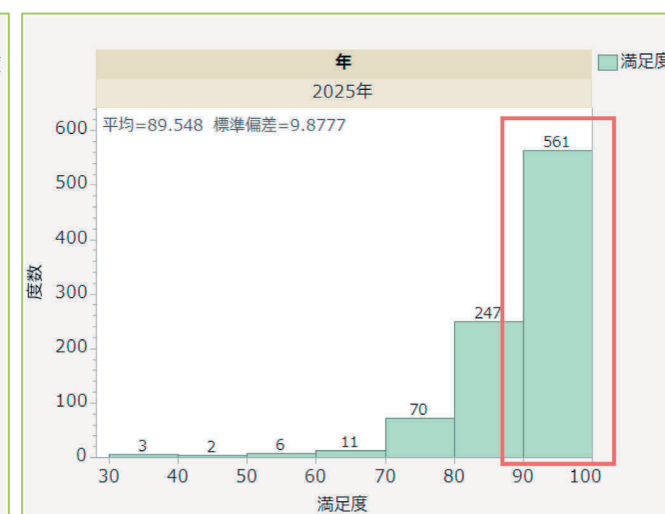


図2 2025年度満足度スコアの分布

問合せ先 医療サービス課 TEL: 0853-88-3401



2026年4月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





お知らせ



ご要望に合わせてお食事を変更いたします！

はしもと ようこ
栄養治療室 主任栄養士 端本 洋子

栄養治療室では、患者さんに安心・安全な入院生活を送っていただけるよう、さまざまな食事サービスを行っています。

たとえば、主食は「ご飯・パン・麺・お粥」からお選びいただけるほか、飲み物は「牛乳・ヨーグルト・豆乳・飲むヨーグルト・100%果物ジュース・低脂肪乳・乳酸菌飲料(ヤクルト)」からお選びいただけます。主食の量(多い、少ない)についても対応が可能です。

また、かたいものが食べにくい患者さんには、主食やおかずをやわらかくして提供するほか、手先の細かい動作が難しい患者さんには、食べやすいように魚の骨や果物の皮を除去することも可能です。

入院中の食事は主治医の指示のもと提供しており、病状や治療の状況によっては対応が難しい場合もございますが、食事に関するご要望がございましたら、お気軽に看護師または栄養士にお申し付けください。

今後とも、入院患者さんが安心して、おいしく食事を食べていただけるよう、日々努めてまいります。

問合せ先 栄養治療室 TEL : 0853-20-2074

ご要望に合わせてお食事を変更いたします

主食

ご飯・パン・麺・お粥
からお選びいただけます
量を増やす、減らす

おかず

やわらかくする・小さく切る・
魚の骨や果物の皮を取る

飲み物

牛乳・ヨーグルト・豆乳・
飲むヨーグルト・100%果物ジュース・
低脂肪牛乳・乳酸菌飲料(ヤクルト®)
からお選びいただけます

ご希望がありましたらお気軽に病院スタッフにお申し付けください。
※治療によって対応が難しい場合もあります。ご了承ください。

島根大学医学部附属病院



ご報告



第16回 島根大学医学部附属病院 医療連携会議を開催しました

おおの さとし
地域医療連携センター センター長 大野 智

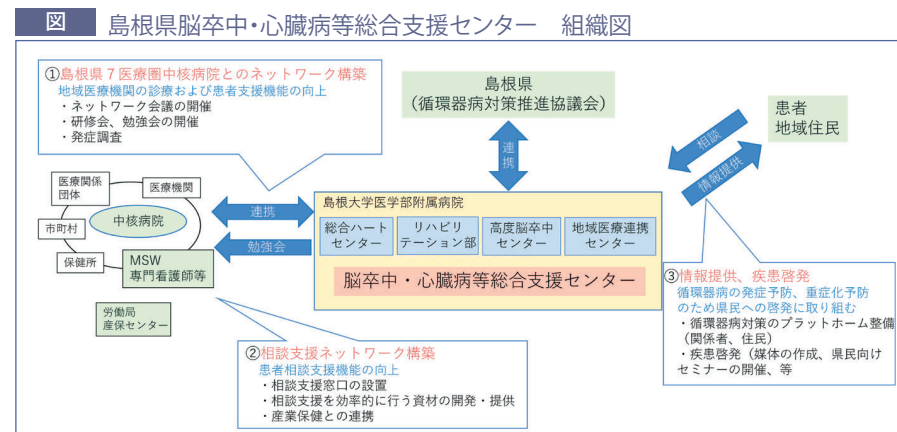
当センターでは毎年、地域や患者ニーズに応じた医療機関相互の連携強化を目的に医療連携会議を開催しています。今年度は、2026年3月12日(木)に、当院ゼブラ棟2階だんだんカンファレンスルームにて開催し、県内計15の施設から医師、看護師、医療ソーシャルワーカー、事務職員等様々な職種の方にご参加をいただきました。

当日は、「地域医療の現状と課題」をテーマに、当院からは退院支援の実績のほか、『島根県脳卒中・心臓病等総合支援センターについて』と題し、脳卒中及び心臓病に関する患者さんからの相談対応体制、県内医療機関の連携状況、地域住民の皆様を対象とした市民公開講座の開催状況、メディカルスタッフを対象としたセミナーの実施状況等について、説明を行いました(図)。

また、ご参加いただいた医療機関からは、各病院の取り組みや課題、当院へのご要望、出雲圏域を中心とした医療の現状に関する情報提供をいただく等、活発な意見交換がなされました。

当院では、本会議でいただいたご意見を受けとめるとともに、安定した医療を提供できるよう、医療機関の皆様とより連携を深め、地域医療の活性化を図って参ります。

今後とも、引き続きご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。



問合せ先 地域医療連携センター TEL : 0853-88-3401





ご報告



ご報告



椎名病院長

一瀬教授

川島講師

有竹助教

松江市民フォーラムを開催しました

総務課企画調査係

2026年3月1日(日)に、松江市のくにびきメッセにおいて、「難病」をテーマとした市民フォーラムを開催し、満席に近い100名を超える方にご来場いただきました。

最初に、膠原病・リウマチ内科の一瀬邦弘教授が、自己免疫疾患が起こる仕組みや関節リウマチの治療法について説明しました。島根県ではリウマチ患者さんの44%が専門施設を一度も受診したことがない実態を紹介し、早期発見・早期治療の重要性を訴えました。

次に、消化器内科(IBDセンター)の川島耕作講師が、炎症性腸疾患(IBD)の代表的な疾患である潰瘍性大腸炎とクローン病について解説しました。関節リウマチと同様に衛生環境の良い国に多い疾患であることや、服薬の重要性について、自身の体験も交えながら紹介しました。

最後に、高度脳卒中センター(脳神経内科)の有竹洵助教が、神経難病について説明しました。指定難病と診断された場合の医療費助成制度や、医療の進歩により病気と共存していけるケースが増えていることを紹介しました。

質疑応答では、「身近な方が難病を患っていて、どのように接したらよいか」「直接島大病院を受診したいが、どうすればよいか」といった具体的な質問が多く寄せられました。また、アンケートでは「身内が膠原病と診断され、正しい知識を得ようと参加しました」「島大の講演を松江で開催してくれてありがたい」といったコメントが寄せられました。

今後も、市民フォーラムなどを通じて、当院の取り組みを発信してまいります。

問合せ先 総務課企画調査係 TEL: 0853-20-2531



3月5日成長体験発表会

3月6日成長体験発表会

新人看護職成長体験発表会を開催しました

看護部看護管理室 副看護部長 いしとび わかこ
石飛 和歌子

新人看護職は、社会人として、また看護職として初めての1年を過ごしました。看護部では、この1年間の看護を振り返る機会として、「私が患者さんと関わる中で印象に残った看護エピソード」をテーマに、新人看護職成長体験発表会を2026年3月5日(木)・6日(金)に開催しました。



発表後、院内研修の様子や各部署の先輩看護職から新人看護職へのメッセージを動画で上映しました。また、出身学校の先生方にもご参加いただき、温かい励ましの言葉を頂戴しました。今年度は学内外から看護学生の参加があり、新人看護職のフレッシュな感性や成長の軌跡とともに共有する貴重な機会となりました。

発表会を終え新人看護職からは、「同期たちの発表は自分自身の学びになった」「同期の発表や先輩や大学の先生方のメッセージからこれかも頑張ろうと思えた」等の感想が寄せられました。また、聴講した先輩看護職からは「真摯に患者さんに向き合っている様子が伝わり感動しました」「新人看護師が一生懸命に頑張る姿や、支える先輩看護師の力、そして自分が新人だった頃のことなど、頭に浮かべ熱い気持ちで聴きました」等の感想が寄せられました。

皆で新人看護職の1年間の成長を共有し、それぞれが自己の看護を見つめ直す機会となりました。これからもお互いに成長を支え合い、力を合わせて頑張っていきたいと思えます。

問合せ先 看護部看護管理室 TEL: 0853-20-2478





ご報告

島大病院ニュース 2026年4月

令和7年度 島根大学学位授与式を挙行了しました

学務課学生支援担当

2026年3月13日(金)、医学部体育館において学位授与式ならびに学位記伝達式を挙行了しました。保護者や関係教員のほか、来賓として丸山達也島根県知事にもご臨席いただきました。

学位授与式では、大谷学長から医学科・看護学科の代表学生に学位記が授与された後、式辞が述べられました。続いて、丸山知事から祝辞を賜りました。その後、成績優秀者に対して学長表彰を行いました。また、両学科の代表学生が謝辞を述べ、最後にジュネーブ宣言を行い、医の倫理を守ることを誓いました。

学位記伝達式では、竹谷医学部長から卒業生一人ひとりに学位記を授与し、祝辞の中で、大学卒業まで長年支えてくださった保護者への感謝の気持ちを大切にすること、そして社会へ羽ばたくうえでの心構えについて、卒業生を激励しました。

今年度の卒業生は、入学時にコロナ禍の影響を大きく受け、当たり前で学べる環境が当たり前ではない現実を経験した世代です。先生方をはじめ、学びを支えてくれた人や環境の大切さを実感してきた彼らが、強さと優しさを兼ね備えた医療人として活躍することを期待します。



問合せ先 学務課学生支援担当 TEL: 0853-20-2088



2026年4月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>

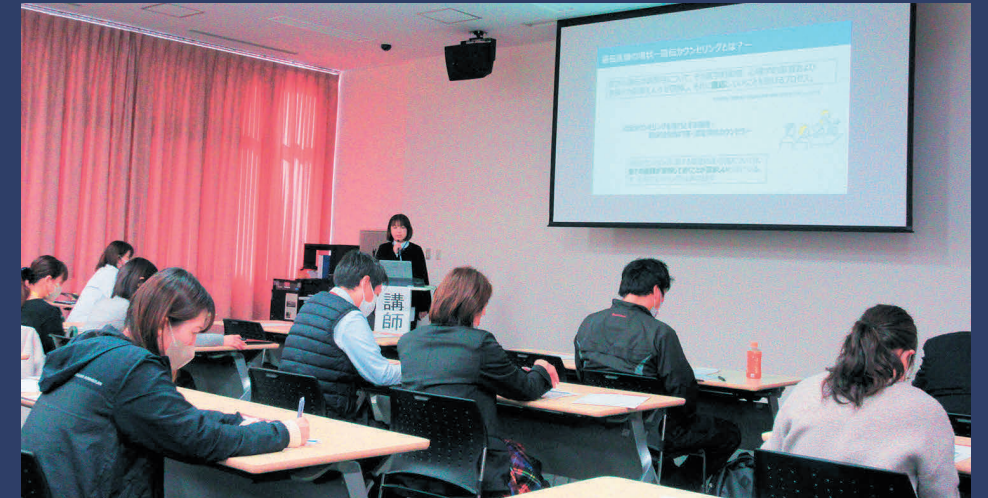


ご報告

島大病院ニュース 2026年4月



チラシ



講演の様子

難病に関する

遺伝医療研修会を開催しました ～遺伝を知ること、深まる難病支援～

臨床遺伝・ゲノム医療センター センター長 やまもと ひろまさ
副看護師長 山本 寛斉
あらき こ
荒木 もも子

2026年2月18日(水)、島根県難病等対策協議会と当院、臨床遺伝・ゲノム医療センターの主催により、難病支援に携わる医療・介護・福祉従事者を対象とした遺伝医療研修会を開催しました(図1)。

近年、遺伝性難病の遺伝学的検査の保険収載や治療薬の開発が進み、遺伝カウンセリングの需要は高まっています。しかし、東西に長く離島も有する島根県では、遺伝カウンセリング体制が東部に偏在しており、正確な情報や専門的支援へのアクセスが困難な地域もあります。その結果、診断後に相談先が見つからず孤立したり、治療や支援につながるまでに時間を要したりする課題があります。

こうした現状を踏まえ、県と協議のうえ、多職種が遺伝医療の実際を学び、地域で協働して支援体制を構築することを目的に本研修を企画・共催しました。今回はその第一歩として、「遺伝医療について学ぶ～基礎編～」(鞍嶋有紀臨床遺伝専門医)、「遺伝カウンセリングと多職種連携の実際」(荒木もも子認定遺伝カウンセラー)について講演させていただきました。グループディスカッションでは、「患者さんの支援のためには、より一層遺伝医療について学ぶ必要がある」「知らなかったことを知ることができた」「考えの多様性を知ることができた」などの意見が聞かれました。

今後は当院、地域医療政策センター(近藤正宏教授)の協力も得ながら、オンライン活用も含め支援体制の拡充を図ってまいります。

問合せ先 臨床遺伝・ゲノム医療センター TEL: 0853-88-3053



2026年4月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





医学科6年生が 第73回山陰透析懇話会で 最優秀演題賞を受賞しました!

腎臓内科 診療科長
副診療科長

かんだ たけし
神田 武志
よしの じゅん
吉野 純

この度、医学科6年生の山本陽南さん(受賞時5年生)が、第73回山陰透析懇話会において最優秀演題賞を受賞しました。本学会は、日本透析医学会の地方会に位置づけられる、歴史と伝統ある学術集会であり、本年は当科が当番幹事を担当いたしました。

当日は山陰地方を中心に医師、看護師、臨床工学技士、栄養士など、透析医療に携わる多職種の医療従事者が多数参加されました。例年以上に多くの演題発表が行われるなか、山本さんは学生でありながら医師部門において最優秀演題賞を受賞するという極めて高い評価を得られました(写真)。

発表内容は腎臓内科臨床実習で担当した好酸球性腹膜炎を合併した腹膜透析患者の症例報告であり、発表ならびに質疑応答のいずれにおいても学生とは思えない完成度との講評が寄せられました。なお、昨年開催された第72回山陰透析懇話会においても、当科にて慢性腎臓病(CKD)に関する臨床研究に取り組んだ医学科1年生(当時)が最優秀演題賞を受賞し

ており、今回の受賞は、本学医学部教育プログラムの質の高さを改めて示すものと考えております。

当科では今後も、臨床実習をはじめとする医学部教育プログラムのさらなる拡充につとめ、島根県のCKD診療、透析医療を支えていく人材育成に引き続き尽力してまいります。



左:吉野副診療科長、中央:山本さん、右:神田診療科長

問合せ先 腎臓内科 TEL : 0853-20-2122

